
dreamers

osa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

dreamers

【NZコード】

N6690C

【作者名】

osa

【あらすじ】

最愛の母を失った少年は、まだ見ぬ父に会つため、一人異国の方へと旅立つ。そこで少年を待っていたのは、安らぎか、絶望か・・・？自分の運命は自分の力で変えてやるー！ー 人の少年の成長物語。

第1話・少年の旅立ち。

お母さん・・・。なんで?なんで僕を置いて行つちやつたの?

日本から飛行機で約13時間。地中海に面する、長靴型の国、タリアン。四方には雄大な小麦畑が広がる。まるで自分が大自然と一体化してしまったかのような感覚。温和な気候の下、街も人もすべてが和やかで、心なしか時間もゆっくり流れているように感じる。

東京とは大違ひだなあ・・・

そんな風景を目の当たりにして、横田オサムは思わず感嘆のため息を漏らしていた。

迷つたけど、やつぱり来てよかつた・・・

精悍でしつかりとした顔立ちをしているが、その姿はまだ幼く、齡10ほどであるうか。

金色のさらさらなおかつぱの髪に、パツチリとした黒い縦長の眼。明らかに日本人離れした容姿をしている。

白いシャツの上には、しつかりとしたおぼっちゃま風のグレーのスーツを着て、首元には赤い小さな蝶ネクタイをしている。

さてと。早くお父さんを探さないと・・・

オサム、オサム・・・。実はね、お母さん、もうオサムとずっと一緒にいることはできないの。『いめんね・・・。本当にじめんなさい。』

あなたには横田グループの跡取りとして、まだ小さいのに辛いこともたくさん経験させてきて・・・。お母さん、最後までオサムのことをやんと支えてあげられなかつたね。

最後に・・・。今まであなたにお父さんの話をしたことがないわね。

あなたのお父さんはね、遠い遠い別の国にいるの。そこでね、国のためにとても大切な仕事をしているのよ。お母さんがいなくなつた後、一度お父さんに会つに行つて、『いりさんなさい。』

きっとあなたのことを受け入れてくれると想つわ・・・。

1ヶ月前、お母さんは病氣でこの世を去了た。

元々体が弱かつたお母さん。僕を産んだ頃から持病が悪化しだして、とうとう僕を置いて遠くにいってしまった。

僕のただ一人の味方だつたお母さん・・・

おじいちゃんから辛い跡継ぎ教育を受け続ける日々の中、お母さんだけが僕を励ましてくれたんだ。

そのお母さんが死んじやつて・・・。もういさんとじゆうじゆうたくなによーーー!

そうしてオサムは祖父の田を溢み、父が住むヒツタリアンにやつてきたというわけなのだ。

もう僕にはお父さんしかいないよ・・・。

お父さんなら、僕を受け入れてくれるはず・・・

もう日本には戻らない!」このお父さんと一緒に暮らすんだつ!ーーー

しかし、しつかりしているとはいまだ10歳。見知らぬ土地で、心細くないわけが無かつた。

父の住むヒツタリアンのルッヂュに来たはいいものの、分かっているのはそこまで。父の具体的な住所や働き場所などは何も分からぬのだった。

はあ・・・。

これからどうしたらいいんだらう・・・。

と、そのとき。

「へえーい、お嬢ちゃん! ひとりい?」

不意に背後から男の声がした。

オサムが慌てて振り向くと、そこに元気な男が立っていた。

しっかりとした筋肉質な体つきをしているが、横幅はそれほど大きくはない。

深い茶色の立てぎみの髪に、ちょっと出した八重歯が似合ひ、いたずら好きそうな顔の青年だ。

「嬢ちゃん、そんなおつきな荷物抱えてどうにいくんだい？
俺がもつてやるからまあ、ちょっとお話しない？ ほらほら」

「あ、いや、そのつ……」

今まで渋谷とかで何度も声をかけられたことはあったけど、こんなに馴れ馴れしいのは初めてだ……。外国人の人ってみんなこうなのかな……？ てゆうか僕は男だつ……

「行くところがあるんですね……、うへ、困ります……」

「いいへじやあへん！ 俺がもつと樂しいことに連れていつてやるよ

「

しづぽあああああんつ……！

突然。ものす「」スペードで空氣を切り裂くよつた轟音が響き渡つた。

田の前の男の茶色の髪が何本か、はらはりと田を舞つ。

「えつ・・・」

「何してるんだ、ソルト。」

男の後ろに、もう一人男がいた。その手には何本かダーツが握られている。

「まつたくお前は・・・。どれだけさぼつたら氣がすむんだ、ソルト。」

「な～んかい、フォールか～。いつ見てもお前のダーツの腕はすぐえなあ～！」

「ソルト・・・」

「お、おうとい～。わかったよ～。すぐ仕込みにこ～へってよ～。」

「フォール・・・？」

オサムは身體いがした。

お母さんが言つてた、お父さんの名前と一緒にだ・・・

フォールと呼ばれたダーツの男。

背丈はそんなに高くないが、金色の少しほねた髪。縦長の垂れた眼。

僕に・・・似てる・・・
もしかしてこの人が・・・?
・・・、

僕の、お父さん・・・?
・・・、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6690c/>

dreamers

2011年1月16日09時18分発行